

表紙の画像について

ChatGPT4とDALL-E 3を用いて知の扉を開く場面をイメージしながら生成しました。最終的なプロンプトを以下に示します。

制作:松永康佑

Photo of an impressive, ancient gate with one door ajar, the scene is infused with a warm, inviting light that seems to come from a place unseen. A non-binary person of European descent, with medium-length wavy chestnut hair, is captured in the moment as they gently push the door open. They are dressed in casual explorer's attire, their face is illuminated by the glowing light, embodying the crossing of a threshold into a realm of new knowledge.



編集後記

ご執筆いただいた方々、ありがとうございます。各分野での「新しい概念」との出会いを感じ取ることができました。技術や、知識、生き物、常識、哲学などそれぞれの分野での出会いを垣間見ることができました。今年はイラストをAIに描かせる試みをしました。いかがでしたでしょうか。

インターネットでの文献調査だけでなく、図書館を活用した文献調査に有効な図書館利用について、特集記事も用意しました。新しい知の拠点として、図書館を利用していただけたらと思います。

デザイン学部 松永康佑

札幌市立大学附属図書館ニュースレター のほほん第17号

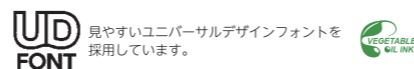
編集 札幌市立大学図書館運営会議
編集委員 松永 康佑 牧野 夏子
金 秀敬 栗原 知己

発行日 2024年1月22日

発行 札幌市立大学附属図書館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
事務局 地域連携課 図書館担当
TEL.011-592-2346

制作・印刷 三浦印刷株式会社

ご感想をお聞かせください。
library@scu.ac.jp



札幌市立大学
附属図書館
ニュースレター

のほほん

第17号
2024年1月



ロゴマーク デザイン学部メディアデザインコース1期生 木村 尚史



『知の扉を開く』(生成AI使用)

特集 「新しい概念との向き合い方」

先人の知恵と想像で変化を楽しむ

デザイン学部 准教授 小宮加容子

出会いは研究への道しるべ

看護学部 教授 喜多 歳子

《X》が気になります

デザイン学部 講師・情報基盤センター長 大淵 一博

犬との生活

看護学部 講師 三戸部純子

スマートシティの「?」と「!」

デザイン学部 助教 坪内 健

医療分野における 新しい概念との向き合い方

看護学部 助教 西川めぐみ

高齢化社会とマリー・クワントの革命

デザイン研究科 博士前期課程1年 伊田 博光

故きを温ねて新しきを知る

看護学研究科 博士前期課程1年 畑山美恵子

概念とおしゃべり

デザイン学部2年 鎌田あおば

新しい概念との向き合い方

看護学部3年 中嶋 楽斗

図書館サービスの紹介(学内向け) 生成AI

のほほん編集委員代表 デザイン学部 松永 康佑

カウンターの内側からの図書紹介

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 小澤 里奈

桑園キャンパス・ライブラリー司書 田村千香子

附属図書館 貸出・視聴ランキング

札幌市立大学
附属図書館
SAPPORO CITY UNIVERSITY



https://www.lib.scu.ac.jp/

先人の知恵と想像で変化を楽しむ

デザイン学部 准教授
小宮 加容子

筆者紹介
福岡県出身。学生時代は、音声で操作する車いすの研究をしていました。その中で障害をもった方たちと食事をしたり、お出かけしたりする機会も多くあり、誰かと一緒に“楽しいこと”をやるってとても幸せなことだなあと気づきました。その後、子育てを通して、たくさんの素敵な玩具やお遊びと出会い、それら全てが現在の研究テーマである「あそびのデザイン」につながっています。



私は「あそびのデザイン」を研究テーマにしています。“あそび”というと“楽しいこと”ですが、それをデザインし、実践するのは簡単なことではありません。誰かにとっての楽しいとは何なのか、その経験をしてもらうにはどのような仕掛けが必要なのか、どのような場づくりをすればいいのか…。たくさん考え、アイデアをだし、それを実施するために場や道具を制作します。そこまでの過程が簡単ではない分、実践の場で参加者の楽しんでいる様子を見ると“しめしめ”と思います。この“しめしめ”は、こちらの想定していたあそび方や行動が参加者がやってくれたことに対して起きる気持ちです。しかし、人間ってそう思い通りにならないものです。こちらが想像を超えたあそび方や行動を見せてくれることも多くあります。そのような時は“そうきたかー”と少し悔しくなり、そして、次のあそびのアイデアへとつなげていきます。私にとって“誰か”はとても魅力的な存在で、「あそび」を通して“人間を知る”ことはとても“楽しいこと”です。そして、あそびのデザインには、今まで多くの人があそびだ経験やそこで得た知識である「先人の知恵」と、もっとこうしたらもっと楽しくなるはず！と思う「想像」が大事です。

振り返ると、私は「なんで？」とよく聞く子どもでした。そして“もしかすると…”と想像することも好きな子どもでした。大人になった今でもそれはあまり変わっておらず、廊下の一部に色が剥けていると「なんでこだけ色が違うの」と考えたり、「なんで？」と聞く相手に「なぜ、ここで、なんでと思ったの？」とか聞いてしまったりします。ただ変わった点もあり、子どもの頃の「なんで？」は知識や経験がないからこそ「なんで？」でしたが、大人になった今は、私が思っていることではない、思いがけない回答が返ってくるかもしれないという期待からの「なんで？」になっているなあと思います。「なんで？」に「なんで？」を返された相手はきっとめんどくさいなあと思っているはずですが、申し訳ない…。

そして、言い伝えとか、昔ばなしも大好きな子どもでした。例えば「夜に口笛を吹くと蛇がくるよ」とか「猫が顔を洗うと雨が降る」とか。これは、母親が私に生活の中での気づきや注意を言い伝えや昔ばなしを通して教えてくれたことが大きく影響していると思います。“なんで？”と質問する私に、“昔、こんなことがあったのよ。だから気をつけようね”と話してくれていました。母親

の話には、科学的な根拠も何もなく、ただ身近な題材で辻褄が合う話であり、そしてそこにはすごく大事なことが込められているように思っていました。

こうやって先人たちは日々、経験した多くの失敗とチャレンジと、そこで得たことを次の世代へと分かりやすく、時には楽しく、時にはちょっと怖く、伝えてきたのだと思います。昔に比べると現代は変化のスピードが速く、多様になっていると思います。新しいモノが次々に生まれ、環境が日々変化していきます。考え方も概念も次々に変化していきます。なんだか分からない大きな波にのまれてしまいそうに感じることもあります。その中で私たちは大きいことも、小さいことも1つ1つ決断をし、前に進む必要があります。この決断をするためには、先人の知恵と想像力があると柔軟に対応できると思っています。不安なことを考えても不安になるだけ。どうせ想像するなら楽しいこと、楽しい未来を考えたいですね。

私が大好きな絵本を紹介します。ヨシタケシンスケ氏の「りんごかもしれない」、「ぼくのニセモノをつくるには」、「このあと どうしちゃおう」です。どの本も現実の世界の中に、先人の知恵と楽しい想像の世界が広がっています。そして、その想像の数はとてもたくさんあります。自分の考えは一つの見方に過ぎず他にも様々な見方があることに気づかされ、違う見方でも考えてみたくなります。漠然とした何か分からないことに戸惑っている時におすすめです。

参考文献
ヨシタケシンスケ「りんごかもしれない」
ブロンズ新社, 2013
芸術の森 1F 絵本 726.6/Yos
ヨシタケシンスケ「ぼくのニセモノをつくるには」
ブロンズ新社, 2014
芸術の森 1F 絵本 726.6/Yos
ヨシタケシンスケ「このあと どうしちゃおう」
ブロンズ新社, 2016
桑園 絵本 726.6/Yos

出会いは研究への道しるべ

看護学部 教授
喜多 歳子



「新しい概念」の登場にどのように向き合っていけばよいのか？そのヒントを、が今回のお題です。正直、難しすぎる～というのが本音です。

概念を特定の知識体系と考えるならば、新しい概念との出会いは、自分の持っている知識を再編成し、その枠組みで未解明点を見つけ研究に発展させるもの。これが、今回のお題の答えになるのかなど不安を抱えつつ、体験を交えて述べることにします。

私の前職は行政保健師で、北海道内の自治体で20年近く働いていました。行政保健師の仕事は市民の健康づくりを目指して保健指導をすることです。その内容は、市民に直接働きかけることその他、保健事業の企画・運営などの仕事も含まれます。住民健診（今でいう特定健診に近い）を担当していたころの経験です。住民健診担当者は、健診の日程調整などの準備から結果の報告書作成までを行うのですが、検査値に異常はあるものの治療を受けるほどではない市民に対し、生活習慣の改善を促す保健指導を企画することも含まれていました。今でいう特定保健指導ですね。この保健指導日の来庁者が少ないことと、毎年同じ指導内容にせざるを得ない住民（つまり、生活改善がない＝保健指導の効果がない）が多いことが課題でした。「わかっているけどできないこともあるよね」、「この方には、他に優先したいことがあるんだろうなあ」とぼんやり思いつつ、保健師のテキストに書いてるように、どうしたらできるのかを一緒に考えることを実践していました。しかし、中には一緒に考えても実行に移せない事情（多くは仕事や人間関係の理由）を持っている方の存在が覚えてきました。保健師として無力感を感じた体験です。

大学院に入学して出会ったのが、WHOの提唱する「健康の社会的決定要因」の概念です。健康の社会的決定要因とは、健康格差（健康の不平等）を生じさせる国内や国際間の金銭・権力・資源の分配が不公正な環境¹⁾と定義されます。毎年、同じような保健指導を受けていた人達の中には、実行しようにも簡単に実行できない社会的に不利な環境に置かれた人たちがいたのではありませんか？そのように認識を変えると、検査値を悪化させずにいること自体が評価されるべきだったと反省し、もの見かたが一転しました。

次の出会いは、概念ではありませんが、「子どもの貧困」²⁾との出会いです。この本では、社会経済的に不利な環境におかれた子どもたちの健康・発達と社会への影響が書かれています。特に子どもの貧困の問題点として、子どもが将来に夢を持ってない、自分の未来に期待が持てない可能性を指摘しています。その後、社会経済的に不利な環境にある人々の健康への影響に関するエビデンスが日本でも数多く発表され、幼少期の社会経済的環境がいかに重要なかがわかってきました。住民健診に話題を戻すと、そもそも健診を受けることや保健指導を受けること、健康のための生活改善、この行為自体が自分自身の将来を考えての行動であり、今を生きるのに精一杯で、将来を考える余裕がない人たちの心には届かなかったであろうことが想像できるようになりました。

そこから、保健師として何ができるのか？社会経済的要因の影響を最小限にする方法は何か？が研究のテーマになりました。最初のお題にもどりましょう。私にとって概念との出会いは、曖昧な知識や解釈を異なる切り口で整理してくれる思考手段であると同時に、自身の知識や体験の不足に気づかせてくれる機会を提供するものと言えます。また、その気づきから、新しい知識や体験を補う研究へと発展させる道標になる可能性を秘めたものでもあると考えます。

参考文献
edited by Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, M. Maria Glymour「Social epidemiology」(2nd ed.) Oxford University Press, c2014
阿部彩著「日本の不公平を考える（岩波新書 新赤版 1157. 子どもの貧困）」岩波書店, 2008
芸術の森 1F 文庫新書 080/lwa/新赤1157

《X》が気になります

デザイン学部 講師・情報基盤センター長
大淵 一博

筆者紹介

帯広市出身。引っ越しは何度か経験していますが、これまで北海道から出たことはありません。なので、旅行に行くのが好きなのですが、いろいろ調べて計画を立てているだけで、旅行に行った気になっている(と家族に言われる)ので、意外と安上がりです。実際には1年に1回行ければいいほうですね。いつか、世界中のベタな観光名所を巡ってみたいものです。



先日、青い鳥が黒い[X]になりました。イーロン・マスク氏がこだわりを持つ[X]。現時点では賛否両論あってその方向性は見え、功罪どちらに転ぶかわかりませんが、SNSの枠にとらわれない大きな変革がおきつつあるように思います。

さて、この[X]以外にも近年いろんな[X]が世の中を賑わせています。まさに[X]ばやり。今回お話しする[X]とは「Transformation」のこと、つまり「改革・変革」という意味です。たとえば、GX (Green Transformation) とは、温室効果ガスを発生させる化石燃料から太陽光発電、風力発電などのクリーンエネルギー中心へと転換し、経済社会システム全体を変革しようとする取り組みのこと[1]。また、SX (Sustainability Transformation) とは、企業が『持続可能性』を重視し、企業の稼ぐ力と環境・社会・ガバナンスの両立を図り、経営の在り方や投資家との対話の在り方を変革する取り組みのこと[2]。どちらもこれまでのビジネスモデルを「変革」しようという試みです。

そして今回の本題は「DX」(Digital Transformation)。IPA (独立行政法人情報処理推進機構) が発行した「DX白書2023」によると、DXの構造は一般に以下の3階層で表されます。

- ① Digitization: アナログ(紙)で扱っているものをデジタル(データ)で扱おうという段階です。例えば、各種の申請書などは規定の用紙に記入して提出することあります、中にはハンコが必要な書類もいまだに多く残っています、これらがFormsとかで提出できたら便利ですね。
- ② Digitalization: アナログでもデジタルでも、手順が決まっている作業というのは多く存在します。例えば、施設利用届が提出されたら、担当の職員の方がその施設がその日時に空いているかどうかを確認し、あいていれば名前と要件をカレンダーに入力しています。これが、Formsで利用申請して、MS365が自動的に空き状況を判断し、カレンダー登録までしてくれたら、職員のみなさんにとっては便利ですね、このように、流れが決まった作業を自動化することをRPA (Robotic Process Automation) といい、DXの第2段階となります。
- ③ DX: 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用しながら、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス・ビジネスモデルを変革していきます。その結果、

業務や組織のみならず、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することです。身近なところでは、フードデリバリーサービス、タクシー配車サービス、無人店舗など、モバイルや認証技術を使ったものになるでしょうか。

このようにDXは一般的に企業におけるビジネスモデルの変革を促す概念であるため、大学が企業と同じような「変革」を行うのは難しいという意見もあります。そこで札幌市立大学では、2024年から「DI (=Digital Innovation)」を掲げ、教育・研究・事務の分野で大学のデジタル化を推進しようとしています。「変革」とまではいきませんが、DXのステップ1と2のDigitizationとDigitalizationを目指します。

DXはシステムを導入して終わり、ではなく、それをどう活用するのが重要です。みなさまの協力を得て初めて実現するものですので、よろしく願います。最後は情報基盤センター長の立場としてのひとことでした。

引用

[1] https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/sp/contents/column/20230407_gx.html

[2] <https://wisdom.nec.com/ja/feature/design/2021011301/index.html>

参考文献

情報処理推進機構 (IPA) 企画・著作・制作「DX白書2023」

情報処理推進機構 (IPA), 2023

芸術の森 2F 参考図書 336.17/Dxh/2023

犬との生活

看護学部 講師
三戸部 純子



筆者紹介

神奈川県出身です。看護師免許取得後、病院勤務をしていましたが、社会人入試で大学に入学し、心理学を専攻しました。ヒューマンエラーがなぜ起こるかについて認知心理学の観点から研究をしています。神奈川県、福島県での大学勤務を経て、2022年に本学に着任しました。大学では日常生活援助やフィジカルアセスメントといった基礎看護学領域の授業を担当しています。

「あたらしい概念」というと大げさですが、最近考えが変わる出来事がありました。それは犬との生活です。縁あって数か月前に4歳のトイ・プードルを引き取り、家で飼うこととなりました。ずっと飼いたいと漠然と思っていて、ペットショップで眺めたりしていましたが、石橋をたたいても渡らない性格のため、なかなか決断できずにいました。しかし、東京に保護団体があることを知り、帰省した折に話を聞きに行こうと思って伺ったところ、あれよあれよという間に家に迎え入れることが決まりました。

最初に会った時は全く吠えることもなく、膝の上にとちょこんと座ってとてもおとなしかったことから、穏やかに落ち着いた生活になるだろうと想像していました。しかし現実はそのではありませんでした。群ようこのエッセイ『おかめなふたり』は、ふとしたきっかけで仔猫と生活することになった作者の生活を綴っていますが、猫と犬の違いはあるものの、今の私の生活に当てはまるものがたくさんあります。エッセイにでてくる仔猫のしいちゃんは、夜中にしょっちゅう鳴いて作者を寝不足にし、昼は飛びつき攻撃をして困らせます。うちの犬は人間に換算すると30歳を超えているはずなのに、振る舞いはしいちゃんそっくりです。私が夜ベッドで寝ていると、ワンワンと吠えて登りたがるのでベッドに上げると、ピョンピョン跳ね回って落ちそうになります。怪我をするのではないかと気が気でなく、ベッドで寝ることが出来ずに床に布団を敷いて寝ようになりました。トイレの場所も定まらず、おとなしいと思うと、いつの間にかトイレシートではない所で用を済ませ、すました顔で戻ってきます。また、散歩に行くと、縦横無尽にダッシュとストップを繰り返して、15分経っても30分経っても疲れる気配を見せません。漫画で走っている様子を渦巻で表現することがありますが、公園で延々と走っている様子を見ると、本当に渦巻が見えてくるようです。外で十分遊んだと思って家に戻っても、まだ物足りないらしく、飛び掛かってきてペロペロと顔をなめてきたり、テレビに向かって吠えたりとせわしなく動いています。ストレス解消のためおもちゃも取り揃えてみましたが、興奮しすぎじゃないかと思うほど激しく遊ぶものもあれば、全く見向きもしないものもあり、なんだかわがままなお嬢様に付き合っているようです。

振り回されてばかりではいけないと思い、マット・ワード著『イ

又のキモチ解剖図鑑』という本を買ってみました。臨床動物行動学者の著者が科学的に犬の行動と対処方法を解説しています。訓練はよい行動に対しておやつをあげたりほめたりすることで、その行動が強化されるという、オペラント条件付けの学習に基づいています。書かれていることは理解しているつもりでも、実際にやってみるのはなかなか難しいです。トイレをきちんとトイレシートの上でしてくれたのに、おやつをわざわざ取り出しているうちにどこかへ行ってしまい、タイミングがなかなか合いません。おやつの代わりに頭をなでてみると、あまり心地よい場所ではなかったりするようで、甘噛みをされたりします。犬をしつけているつもりが、実は私が良い飼い主になるように試されているような気がします。引き取った頃は、ご飯と寝床をきちんと提供すれば満足してくれるのではないかと考えていたのですが、おごった考え方であったと反省しています。

こんなバタバタした毎日ですが、最近は犬も気を遣ってくれるようになり、私が寝ている間はおとなしく待っていてくれるようになりました(但し、朝の目覚ましのアラームが鳴ると同時に、「起きろ!」と身体にのしかかってきます)。今はまだ、穏やかな生活とはいきませんが、お互いに少しずつ歩み寄りながら、居心地の良い関係を築いていければよいと思っています。そんな訳で、私にとっての新しい概念は、「犬は人を育てる」です。この考えを忘れず、良い飼い主として成長していけるよう頑張ろうと思います。

参考文献

群ようこ著「おかめなふたり(幻冬舎文庫)」幻冬舎, 2004

マット・ワード著; ルパート・フォーセットイラスト「イヌのキモチ解剖図鑑: 犬と飼い主をもっとハッピーにするためのガイド」エクスナレッジ, 2023

スマートシティの「？」と「！」

デザイン学部 助教
坪内 健

筆者紹介
1991年愛知県尾西市(現・一宮市)生まれ。中高生までは小説、大学生からは専門書をよく読んでいる。小説では、新潮社によるサリンジャーの一連の文庫本(現在は古いバージョン)が好きで、サリンジャーの優しさに満ちたストーリーは当然のことながら、端的で印象的な言葉運びを用いた野崎孝による訳や、水玉模様で統一されたそっけないもののおしゃれな装丁も含めて好き。生成AIとの向き合い方は、まだ「それがどうした?」の状態。



私の専門の建築や都市は、一度立ち上がると一定の期間そこに在り続ける。そのため、基本的に進歩のスピードは遅く、ドラスティックに変化していくテクノロジーの進歩と比べると極めて対照的だ。そうしたスローな文化に身を置き、加えて自身のひねくれた性格も相まって、私は新しい概念に触れても大抵は「それがどうした?」とまずは斜に構えていることが多い。

例えば、スマートシティ。ICTやIoT、AIやロボット、ビッグデータといった最先端の技術を駆使し、過疎化や高齢化、地域格差やエネルギー問題など現代社会が抱える様々な問題をプレイクスルする。この構想は現在、様々な都市や地域でその実装が試みられており、その一つにトヨタがつくるスマートシティ「Woven City」がある。この計画はデンマーク生まれの建築界のスーパースター、ピャルク・イングルスが手がけており、ぜひとも読者には美しいCG映像によるプレゼンテーションを見ていただきたい。プレゼンテーションでは、「Woven City」には3つのタイプの道があり、タイプごとに行き来するものを明確に分け(①自動運転車、②歩行者とパーソナルモビリティ、③歩行者)、それらの道を編み込むように交差させることで街を形成すると説明されている。

私は新しい概念によって計画された「Woven City」のCG映像を見たとき、例によって「それがどうした?」と斜に構えることから始めてしまった。というのも、自動車と歩行者の動線を分ける歩車分離の計画概念は、近代の住宅地計画で古くから実践されており、わざわざ最新の技術を駆使しなくとも自動車と人間が共存する住環境は実現できるように思えたからだ。実際、アメリカのラドパーンでは、1929年に「自動車時代のまち」として歩車分離による住宅地計画が実現し、そのコンセプトは世界中のニュータウンで展開された。そうした実践を知っている私にとって、「Woven City」のCG映像は過去の知見や蓄積を度外視しているように感じられ、美しいCG映像に引き込まれながらも大きな違和感を抱いた。

しかし、よくよく考えてみると一方で違う思いが浮上してくる。それは、建築や都市の新しい計画概念は、いつもその時代の危機を解消するために生まれてきたものではないかという気づきだ。歩車分離の計画も自動車が急速に普及したことによる交通

事故の増加を解決するために見出された。思えば、大火には街路整備、伝染病には田園都市、震災には区画整理、新興感染症にはステイホームといった具合に、都市や建築はいつもその時々々の危機に対処するために新たな計画概念をつくりあげてきた。そう考えると、スマートシティも現代の危機が要請した新たな計画概念ではないかという気がしてくる。そしてもう一度プレゼンテーションを見返して、「それは人間同士のつながりだったのか!」とはたと気づく。

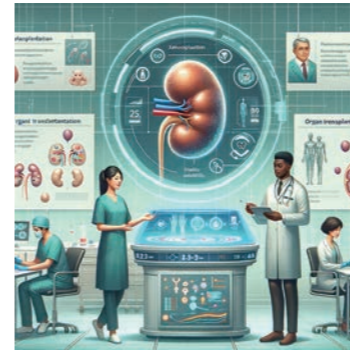
近代が様々なものを適切に整理し切り分けていくことで危機に対処してきたのに対し、現代ではそうした整理や切り分け自体が人間同士のつながりを希薄なものとし、分断となって危機として台頭するようになった。実際、「Woven City」の事業主であるトヨタが提唱するこの街のコンセプトは「コネクティッド・シティ」だし、CG映像では様々なモビリティに乗った人間が互いの衝突を避けながら、ごちゃごちゃと共存し交流する様子が描かれている。そうか、「Woven City」は過去の知見や蓄積を度外視しているわけではなく、むしろそれが弊害となった現代の危機に対処するために最先端技術を駆使した住宅地の計画をつくっていたんだ!

私は新しい概念と向き合うとき、いつも「?」から「!」をたどっている気がする。それは、「それがどうした?」という頑固な態度を手がかりにその中にある違和感を見つけ、少しずつ考えていくうちに「それは…だったのか!」と逆行的に理解していく道筋といえそうだ。

参考文献
エリン・グリフィス著、樋口健二郎訳「フォトリアルCGで見る 世界のSDGsスマートシティ」原書房, 2022
芸術の森 2F 一般図書 518.8/Gri
Squint/Opera「Toyota Woven city」
<https://www.youtube.com/watch?v=BONZLgt1G2U>, 2020 (2023年10月25日参照)
吉田信之編「危機がデザインする都市=City: designed by crisis」JA: the Japan architect, Vol.118, 新建築社, 2020
芸術の森 1F 雑誌

医療分野における新しい概念との向き合い方

看護学部 助教
西川 めぐみ



筆者紹介
旭川市出身。父の転勤のため、北海道内で転居を繰り返す、大学から札幌在住。大学卒業後は、大学病院で勤務し、病棟看護師を経て、レシピエント移植コーディネーターとして、腎臓移植を受ける患者さん、ご家族への支援を行って来ました。移植を受けた患者さんが少しでも長く腎機能を維持できるよう、服薬管理に関する研究や透析施設と移植施設の連携に関する研究を行っています。

昨今、ChatGPTを代表とする生成AIが開発され、私たちの生活に活用されつつあります。私はこの春まで、レシピエント移植コーディネーター(Recipient Transplant Coordinator:以下、RTC)として勤務してきましたが、移植医療の分野においても、大きな変化が起こりつつあると感じています。今回は私が感じた変化について、腎移植に関連して、お話ししたいと思います。

腎臓移植の領域においても、AIを活用した研究は進んでおり、機械学習による手術難易度の評価システム、移植後に服薬が必須となる免疫抑制剤の最適化、移植腎の予後予測などにAIが活用され始めています。

また、近年では、新しい概念である「異種移植」(iPS細胞からの臓器再生医療)などの研究が進んでいます。「異種移植」とは、動物の臓器をヒトへ移植する方法ですが、その安全性や倫理面において、課題が多いとされてきました。しかし、2022年1月に米国にて、世界で初めて遺伝子改変されたブタの心臓をヒトに移植する手術が行われ、様々な課題は残されていますが、現実的な未来へと変わりつつあると考えられています。

日本では、脳死下・心停止下における臓器提供数が非常に少なく、多くの患者さんが移植を希望し、待機している現状があります。近未来に、異種移植やiPS細胞からの臓器再生医療が可能となれば、移植を待つ患者さんの待機期間が短縮され、生命の維持やQOLの維持・向上が期待されると考えられます。

これらの概念は、以前から研究が行われていましたが、私がRTCになった頃には、遠い未来の話で、現実の世界で可能となるとは想像もしていませんでした。

そんな私がRTCとして活動を始めた頃、「腎移植のすべて」という本を購入しました。この本は、書籍名の通り、腎移植の背景から検査、手術手技、術後管理や移植コーディネーターの役割、倫理問題と法律に至るまで、腎移植のあらゆることが記載されており、移植医のバイブルともされている本です。看護師5年目の私には、16,000円と高価な本でしたが、将来の自分への投資として、思い切って購入した記憶があります。今、振り返ると、わからないことがあれば、本を持参し、医師のもとへ向かい、移植に関する様々な知識を教えてもらうことができた、思い出が詰まった1冊です。しかし、この本は2009年に発行されているため、

その後、様々な研究が進み、新しい治療方法が確立されていく中で、この本が腎移植のすべてではなくなる日が来るのかなと感じています。それは読者としては、少し寂しい思いもありますが、多くの可能性を秘め、よりよい未来に向かっていくのではないかと考えています。

私たちは日々生活する中、また、医療に従事していく中で、新しい概念やモノ・コトに出会う機会は多くあります。特に、医療分野では、新しい概念やモノ・コトを導入する際に、リスクとベネフィット、安全性や倫理面など様々な視点で検討を重ねる必要があります。

その際に、新しい概念がもたらす影響をポジティブに考える人もいれば、変化に対してネガティブに考える人もいるでしょう。私も医療現場で働く中で、そのような場面に何度も直面してきましたが、多種多様な考えがあるからこそ、チームで働く意義があると考えています。

私は、新しい概念と向き合う際、まずは新しい概念に対し、自分がどのように捉えているのかを自己分析することが大切ではないかと思っています。その上で、関係する人々と、新しい概念が私たちの生活や看護、医療にどのような変化をもたらすのかについて、話し合いながら、向き合っていきたいと考えています。

参考文献
岩藤和広「AIの歴史と腎移植における活用: Society 5.0における臓器移植の在り方を求めて」Organ Biology, 29 (2), 84-89, 2022
山口照英研究代表「遺伝子改変を行った異種臓器の移植に関する課題や論点等の整理のための調査研究」厚生労働行政推進調査事業費補助金 総括・分担研究報告書(課題番号: 22CA2023) 2023, <https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/001100467.pdf>
高橋公太編「腎移植のすべて」メジカルビュー社, 2009

消齡化社会とマリー・クワントの革命

デザイン研究科 博士前期課程 1年
伊田 博光

筆者紹介
ファッション雑誌の編集に深く関わりました。ディレクションやライティングやエディティングと様々な仕事に従事してきました。読者にファッションの持つ社会性や時代を動かす力を伝えたいと思いつながりながら一冊一冊を大事に作ってきました。この経験を活かしてファッション雑誌の過去、現在、未来について研究を進めたいと考えています。

「夫婦はどんなことがあっても離婚しない方がよいと思う」、「流行やトレンド情報に関心がある」、「ものやサービスの購入についてこだわる方だ」など、多彩な価値観に関する問いにおいて、年代による差が縮まっていることを表す「消齡化社会」という言葉を皆さんはご存知でしょうか？

一言でいうと生活者の意識や好み、価値観などについて、年齢による違いが小さくなる現象「消齡化」が進んでいる社会のことである。

今まで、「×世代は××だ」、「30代は〇〇だ」と年代や世代で区切って生活者を理解しようとするのがマーケティングの定番であった。しかし、「消齡化社会」ではそのベースにある年代・世代で意識や価値観の違いがなくなってきたのだ。脱・大衆化、多様性社会への流れが一般化しつつある中、消齡化は一見すると矛盾する動きのように思える。しかし消齡化の進行は、加速度を増し、社会構造やマーケット、人間関係や幅広い範囲にわたって影響を及ぼしており、これまでの方法や捉え方が通用しなくなり、新たな視点が求められる方向に進んでいる。

二度の世界大戦を経て1950年代イギリス、ロンドンに疲弊していた。大きな破壊もなく戦後、アメリカの経済支援を受けて急成長したフランス、パリとは違って社会全体が苦しんでいた。

悲惨な戦争とファシズムとの闘いに勝利した後に原子爆弾の恐怖が襲い、「東西冷戦」が始まっていた。暗く、苦しい戦後不況の10年。鬱屈した空気が、“若者”たちのエネルギーを抑制していた。そして“大人”と“子ども”しか存在しなかった社会にティーンエイジャーと呼ばれる“若者”が登場する。

その当時、1960年代「スウインギング・ロンドン」の産みの親であり、怒れる若者と呼ばれた作家コリン・マッキンネスは『Absolute Beginners』を発表。若者たちの心を掴み大ベストセラーとなっていた。

そんな時代の気分に後押しされファッションデザイナー、マリー・クワントは1958年にロンドンのキングスロード135Aにブティックをオープンする。その後イギリス発のストリート・カルチャーの流行と共に、ビートルズやローリングストーンズと肩を並べる重要な存在となる。その業績は多岐にわたるが、一番の功績はミニスカートを世に広めたことにより、女性の装いやライフスタイルを刷新しただけでなく、女性の意識改革を進めたことである。



その当時、ファッションはパリのオートクチュールに限定されていて、一部の上流階級のみの特権であった。しかし、彼女のドレスは一般庶民の手の届く価格帯で販売されたこと、デザインが機能的で動きやすかったことで都市部を中心に大成功をおさめ、世界中に広がっていく。その当時は男性目線の女性らしいラインを強調するきつく絞ったウエストから大きく広がるスカート、というスタイルが一般的であった。これに反して彼女がデザインしていたのは、細身だがウエストを強調しないワンピースで、動きやすく機能的でスタイリッシュなものであった。ミニスカートは単なるスカート丈の短い衣服と言うだけでなく、戦後における女性の生き方の多様化や現代社会のフェミニズムやジェンダーレスの流れを促進したのだ。

そんな大人と若者が大きく分断された「スウインギング・ロンドン」の時代とは違って消齡化の動きは、「年代/年齢が違っていても、意識や価値観、好みなどはあまり変わらない」、「年代/年齢に紐づく「らしさ」は薄れつつある」ことは、共通認識として広がっていくであろう。博報堂生活総合研究所の発表によると10年後も年齢による意識・好み・価値観などの違いはさらに小さくなっていくそうである。変化をしっかりと見極めメリットとデメリットを考えながら前進していくのみである。「消齡化社会」においては若者が大人に「NO!」を突きつけて始めた「スウインギング・ロンドン」のような大きな変革の時代はもうこないかもしれないが、「自由に自分らしく」を唱え女性の服装を開放し、ミニスカートで社会現象を起こしたマリー・クワント。消齡化により全ての世代がミニスカートを受け入れる時代がきたことをきくと天国で喜んでいるに違いない。

マリー・クワント (2023年4月13日没)

参考文献

博報堂生活総合研究所著「消齡化社会：年齢による違いが消えていく! 生き方、社会、ビジネスの未来予測」集英社インターナショナル, 2023
Colin MacInnes [Absolute Beginners] MacGibbon & Kee, 1969
ジェニー・リスター著 [Mary Quant：時代を変えたミニの女王マリー・クワント] グラフィック社, 2022

故きを温ねて新しきを知る

看護学研究科 博士前期課程 1年
畑山 美恵子

筆者紹介
北海道の雪の多い町で生まれ育つ。札幌市内の大学病院へ勤務し20年以上が経過。今年度より大学院へ進学し看護管理学を専攻している。将来の夢はコーヒー屋さん。コーヒーが好きで全国各地のコーヒーにこだわったカフェをめぐる。



看護師歴20年目を迎えた私にとって、大学院への進学は新しい概念との出会い、そのものの年となりました。自身にとっては新しい概念との出会いでしたが、それらの多くは先人の体験や研究の成果であることを知ると、重みを感じます。知らずに過ごしてきた時間を後悔もしますが、今の瞬間が一番新しいと考えると最善のタイミングで知ることができたのだと前向きに捉えようと思っています。

大学院への進学の前年、働きながらの進学にやっていたいけるかと不安がありました。科目履修制度を教えてください、大学院への進学前の令和4年度に運よく授業を受講することができました。科目履修制度を利用したことをきっかけに、知らなかった理論や概念に触れ、新たな興味にもつながっていきました。管理やマネジメント関連の本を読む機会も増え、その中の一つが「孫子の兵法」でした。20年ほど前にも読んだことがあったのですが、当時は内容を把握する程度でとどまっていた。

「孫子の兵法」は、紀元前500年頃に書かれた戦術書です。ナポレオンから武田信玄、マイクロソフトのビルゲイツまでが「孫子の兵法」で戦略を学んできたと言われていています。本質は「戦いに勝つ」ことが書かれていますが、現代社会にも応用が可能です。2500年もの間多くの歴史に名を遺す偉人達が戦いに応用してきましたが、現代を生きるためのヒントとしても活用ができるのです。「温故知新」は新しい概念であるという気づきをくれ、新しい概念と向き合う上では必要不可欠ではないかと考えています。

例えば、私の日常の出来事を「孫子の兵法」に当てはめてみるとしっかりとくることが多くあります。

仕事や日常生活の中でも、時にイライラとしてしまい、感情が表に出てしまう時もあります。そんな時ほどうまく仕事が回らないのです。孫子は、「憤りをもって戦いを致すべからず」怒りにまかせて行動しないと書いています。さらに、「これをもってこれを観れば勝負あらわる」冷静に合理的な判断をすることが成功の鍵だとも言っています。当たり前のことのようにあるのですが、2500年も受け継がれた名言は自分を振り返り、仕事と向き合うための心構えを示してくれたような気持ちになるのです。

「兵に形すの極みは、無形に至る」最良の形は変わる。前はこうしたからうまくいった、今回も同じようにすれば大丈夫と思うことも多くあります。しかし、時代の変化や世の中の求めるニーズは変化しています。過去の成功体験にばかりとらわれず、何が適切であるかを見直さなくてはならないのだと思います。

習慣化したことや、制度や決まりなどはすぐには変えられず、もどかしい思いをする場面も沢山あります。特に人との関係の問題はどんな社会にもついてまわります。「敵をして必ず勝つか可からしむ能わず」相手ではなく自分を変えることが、ことをうまく運ぶためには必要となるのです。私にとって、大学院への進学は自分を変える大きなきっかけとなりました。

「智者の慮は必ず利害を雑う」批判にも耳を傾ける。多くの人と仕事をするとき色々な意見が耳に入ってきます。自分にとっては心地の良い情報ばかりではありません。ところが、ある人にとってはデメリットだと思って聞いていた内容が、時にはメリットである時もあるのです。物事は利害の両面から考えるのが大切なのだ学びました。

新しい概念とは、伝統的な概念を受け継いだ結果に生まれるのだと思います。先人たちの言動から新しい知識を得て、それを実行することが管理者、教育支援には求められているのだと実感しています。

参考文献

吉田浩著；つだゆみマンガ「孫子の兵法がマンガで3時間でマスターできる本：決定版」明日香出版社, 2021
斎藤孝著「使える! 孫子の兵法」(PHP新書, 805) PHP研究所, 2012

概念とおしゃべり

デザイン学部 2年
鎌田 あおば

筆者紹介

札幌出身、札幌南高校卒業。基本的にすぐに沼にはまりがちなでいるんな分野に推しがいます。SEKAI NO OWARIとか龍神NIPPONとかその他いろいろ。。今年ほとんどの推しのライブに当選したので大満足の一年でした。趣味はお菓子作りです。文中に出てくるconteのまかないボウルを愛用しています。まだまだ将来を模索中なので今後も様々な物事に触れていきたいと思っています。



私は新しい人と話すときいつも目を見開いているような気がする。

人と話すことは好きだけど、話題を自分から出すのが苦手な私は誰かと話し始めるときにいつも何を話そう…気まづくならないかな…と少しそわそわしてしまう。でも普段と違う場所ですぐの人であればそうであるほどすぐに私の頭の中は「え、そんな面白い経験してきたの!」「そういう考えもあるんだ!」「それってどういうこと??」っていう言葉でいっぱいになる。同じ対象について話していても全く違う考えが出てくることもあって、まるでそれは私の中に新たな概念が入ってくるみたい。この原稿テーマを聞いたときにパッとそんなことが思いついた。初めて会った人と話すときと新たな技術や概念に触れるときってなんだか似ているような…。

私は2023年にたくさんの初めてを経験した。4日前に飛行機を予約して初めて1人で飛び込んだ東京のデザインイベント、ビアガーデンとオータムフェスタでの初めての単発アルバイト、そしてちょうどこの原稿の締め切りまであと4日というところでひとり参戦したSEKAI NO OWARIの初めてのZepp Sapporoでのライブ。そのすべてが私の中で楽しく、また多くの学びがある経験となった。そう思えるのは、確実にそこで巡り合った人たちのおかげだ。

いろんな人といろんな場所でいろんな話をした。その会話の中で私は相手はどんなところが素敵なのかなのか、何が好きで何が嫌いなのか、自分と波長が合う瞬間はどれくらいあったか、向こうは私のことをどう思っているのかなど目に見えない質問用紙をうめるために答えを集めていく。東京のイベントのときはそこに自分の将来への道が開けるキーワードはないかという質問も加わった。これから新たなアクセサリーブランドを売り出すファッションデザイナーと1対1で会話をしたり、年齢も出身も違うのに話がとっても合う友達ができて2人で仕事の話をしたり、偶然ロッカールームで出会った東京の大学生と意気投合してそのままご飯に行ったり。自分とまったく違う道を歩んでいる人たちだからこそ聞く話すべてが新鮮で、この機会を逃すな!たくさん吸収してこの短くて貴重な時間を楽しめ!と言わんばかりにいろんな情報が降り注いでくるみたいだった。特に新潟県燕三条地区

にある台所用品ブランド「conte」のプロデューサーとデザイナーのおふたりと話せたことは私にとって新たなことに挑戦する1つの大きな自信となった。一見シンプルに見える製品の中に溢れるほど詰め込まれたこだわりを細かく丁寧に説明してくれたり、反対に会ったばかりの私の話を聞いて意見をくれたり。イベントの数ヶ月後に連絡をしたら私のことを覚えてくれていて、それもまたさらに私の世界を広げてくれた出来事になった。

このわくわくを対概念でも感じられたらいいのではないだろうか。新しい概念が世に出てきても新しいコミュニティで友達を作るみたいに「あなたってどんな長所があるの?」「どういうカテゴリーにいるの?」「じゃあ苦手なことは?」ってたくさんそのものの要素を引き出したらいい。相手が概念ならどうせその会話は誰も聞いていないからちょっとだけ文句を言ったり、苛立ちながら接するのも自由だ。概念がこちらの反応に忖度してわかりにくいところを簡単にするとか、自分からたくさん説明してくれるとか、そういうことはしてくれないから少しの間はこちらが大人になるしかない。それでももし、どうしても相性が悪いというときは「私とあなたは仲良くなれなさそうだね」って別れを告げるのも1つの選択肢だと思う。嫌われる心配も空気を読んでわかったふりをする必要もないから人との触れ合いよりも気楽なはず。ただ初めから知らんぷりしたり怖がりするのはなんだかちょっともったいないから、最初の一步としてみんなの先生に「〇〇ってなに?」って打ち込んでみるのはどうだろう。もしかしたら思いがけず今後を共にする親友との出会いがあるかもしれない。

新しい概念との向き合い方

看護学部 3年
中嶋 楽斗

筆者紹介

生れも育ちも北海道の札幌。幼いころに腎臓の手術を受け、その時、その後の検査時など、寄り添ってくれた看護師にあこがれ、看護師になることを夢見てこの大学に入学した。卒業後も生まれ育った大好きな札幌に貢献するために日々奮闘している。



そもそも「概念」とは何だろうか。なんとなく使っている「概念」という言葉であるが、この言葉を説明できる人はそう多くはないと思う。ここでは、分かりづらくなるため、あえて辞書等の定義は用いない。「概念」は英語で“concept”という。英語で書くとは分かりづらいたろうが、コンセプトとカタカナで書くと分かりやすくなるであろう。そうすると、新しい概念はニューコンセプトとなる。車が颯爽と広い道路を駆け抜けるCM等で、ニューコンセプトなどとよく謳われている。そのうえで、「概念」を私なりに説明するとしたら、ある物言を一言で的確に表すことができる言葉であると考えて。先程の車の例でいえば、車のコンセプトと聞けば、どのような車を想起できるという具合だ。

ここで、本題の新しい概念との向き合い方であるが、日常を過ごしている中で、実は意識していないだけで、各々が自分なりの方法でこれらに向き合っているのではないだろうか。既存の何かに対して新しい概念が追加されたときに、どう対応するか。それは人によって違ってくるだろうが、私はひねくれている性分であるため、必ず否定的な意見がまず思い浮かんでしまう。その根拠であったり、理由を納得できるまでは反発してしまう。理解した後は、その新しい概念の良い面を見つけ、それと共に新しい概念と向き合うといったところである。向き合うというよりは、受け入れるに近いかもしれない。

看護にはアセスメントという、適切な看護を患者に提供するために、患者の状態等を総合的に多角的な視点から判断するという思考の過程がある。授業のグループワークで、各自で事例に対するアセスメントを行った後、その内容を共有するといった場面がある。そのときに、自分にはなかった新しい視点を見つけたときは、その考えに吸い込まれるように吸収したいと思う。しかし、自分の中で何個も選択肢や考え方があったうち、自分が適切だと考えなかった考え方を選んだ人を見ると、なぜこれを選んだのかが理解できなくて、理解しようとするのをシャットアウトしてしまいそうになる。

しかし、ある本を読んでからは少しずつ、徐々にではあるが、新しい概念に向き合えるようになってきた。その本は「人を動かす」という本である。この本は、人間関係を円滑に進めることに関する原則を著者が紹介するという本である。この原則の中に、

“誠実な関心を寄せる”というものがある。これは元来、人に好かれる原則の中に入っているが、私はこれは大変いいものを知ったと思い、人に好かれるという目的ではなく、自分を少しでも変える目的で活用してみることにした。その結果、今まではシャットアウトしていたものが、自分の中に新しい概念として追加されることで、自分の思考に深みが出てきた。自分自身の考え方や行動について、自分の可能性といっは格好が良すぎるかもしれないが、新しい概念をシャットアウトすることで自分の伸びしろを閉ざしている可能性がある。少しの気づきや、僅かに行動を変えることでこれを閉ざさないようにできる。それをこの本は気づかせてくれた。

先に述べたが、私自身の「概念」は、ある物言を一つで的確に表すことができる言葉である。新しい概念に誠実に向き合い、向き合い方を模索することで、自分自身の概念の範囲を大きく広げてくれるのではないだろうか。この文章を読んでくださっている方々も、何か一つのほんの小さなきっかけで、少しでも自分の知見が広がることを頭の隅に置いておいてほしい。

参考文献

D.カーネギー著；山口博訳「人を動かす (Handy Carnegie's best)」創元社、1986
桑園 文庫・新書 159/Car

図書館サービスの紹介 (学内向け)

のほほん編集委員代表 デザイン学部

松永 康佑

本学図書館では、本を探す、本を借りるといった、基本的なサービス以外に、学業に役立つサービスがありますので、改めてご紹介します。

■本の返却

どちらのキャンパスでも返却することが可能です。(芸術の森キャンパスで借りたものを、桑園キャンパスで返却する、またはその逆) また、キャンパス間での取寄せも可能です。

■電子書籍

本学が購入済みの電子書籍を読むことができます。契約サービスはMaruzen eBook Library (学術) とメディカルオンライン (医学・医療) です。学内ネットワークからの接続のほか、学外からもアクセス可能です (統合認証アカウントでログイン)。現在500件余りの所蔵があります。

■データベース

CiNii [サイニイ] やJ-Stage [ジェイ・ステージ] など、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報を無料で検索・閲覧できるサイトの他、契約中の、医中誌Web、どうしんDB (北海道新聞データベース) など、15件のデータベースが、学内ネットワークからアクセス可能です。

■ILL

本学図書館に図書や論文がない場合でも、他機関の図書館からの貸借や、複写物を取り寄せることができるサービスです。複写のおおよその費用は見開き1枚 (A3) あたり数十円+送料などです。大学院生であれば、院生研究支援費からの支出が可能です。本学図書

館サイトから「マイライブラリ」にログイン後ILLサービスを申し込みできるほか、各データベースから文献情報を流用して申し込むことができます。論文タイトルや概要から「中身を読みたいけど、閲覧できない」ときに利用します。

■DDS

洋雑誌掲載の学術論文が国内で入手できない場合に、電子化されたものを取り寄せることができるサービスです (和雑誌掲載論文は対象外)。

■電子ジャーナル

本学で契約している学術雑誌を閲覧することができます。図書館HPの「電子ジャーナル (学内限定)」より学内ネットワークからアクセス可能です。

■機関リポジトリ

本学図書館に登録されている、本学教員・学生の研究成果等が閲覧できます。紀要論文、雑誌論文、学位論文など200点余りがあります。

■レファレンスサービス

資格を持ったスタッフが、受付にいますので、文献調査等で相談することが可能です。

■その他の注意

図書館の蔵書等をスマートフォンで撮影することは、著作権侵害になります。図書館に設置してあるコピー機を使いましょう (著作権の範囲内での複写が可能です)。

生成AI

のほほん編集委員代表 デザイン学部

松永 康佑

AIは多様な場面で利用されるようになりました。身近なところでは、掃除ロボット、SiriやAlexaなどの会話認識、翻訳、文字起こし、広告、チャットや電話対応の一部、自動車運転の一部、ニュースアナウンサーの一部などが挙げられます。これらのAIは「自動化」が主な焦点でしたが、生成AIは「新しくコンテンツを生成する」ことが大きな違いです。

昨年末頃よりテキスト生成AI「ChatGPT」が話題となりました。「チャット」という使い慣れたインターフェイスで利用できることや、言葉として自然な返答が得られる点が大きな特徴でした。さらに「プロンプト」と呼ばれる、細かな指示をAIに伝えることで、より精度の高い (求めているものに近い) 返答が得られることも、重要な要素です。ChatGPTを用いた二次サービスを提供する際に、ツールとしてカスタマイズし、各種のニーズに合わせた機能を提供できるためです。

限定的な用途において、自然に使えるようになった生成系AIですが、問題も指摘されています。主には、「不正確な回答をすることがある」問題と、「著作権」などの法的な問題があります。もっとも面白い文章、もっと

もらしい画像を出力する生成AIですが、意味や正確性まで考慮されていないため、現時点では、正確性を人間が判断する必要があります。また、AIの学習元となるデータは、誰かが制作した文章や画像であるため、元の制作者の著作権を侵害していないことが重要になってきます。

生成AIはテキストのみならず、画像、映像、音声、プログラミング、テキストの要約など、様々な用途で使われ、精度も日進月歩で向上しています。「知」をテーマに扱うことが多かった、「のほほん」において、広い視野で、今年のテーマとさせていただきます。また、各ページのイラストはChatGPT-4からDALL-E3を用いて生成しました。

インターネット普及以前では、調べるといえば本屋か図書館でした。それがインターネットの登場により様変わりし、検索エンジンの登場で効率よく調べることが可能になりました。これまでは「キーワード検索」の能力が調査能力に大きく関わっていましたが、今後は自然な言語での「聞きだす力」が調査能力に関わってきそうです。

ChatGPT-4に聞いてみました

Q. 「知」とはなんですか？

A. 「知」とは、一般的に、情報や経験に基づいて獲得した認識や理解のことを指します。しかし、この言葉は文脈や使用される状況によって、いくつかの異なる意味を持つことがあります。

1. 【知識】：学問や経験を通じて得られる情報や事実の集まり。たとえば、歴史や数学の知識など。
2. 【理解】：情報や事実だけでなく、それらの背後にある原理や意味を把握する能力。
3. 【認識】：何かを認識または理解する行為や過程。たとえば、新しい情報を学んでそれを知ること。
4. 【情報】：知るためのデータや事実。

また、「知る」という動詞は、何かを学ぶ、理解する、認識するという意味で使われます。

哲学的な文脈では、「知」とは真実の事実や状態を正確に認識すること、または正当化された真実の信念としても定義されることがあります。

このように、「知」という言葉は多様な意味を持ち、使用される文脈によってそのニュアンスが変わります。



集計期間：2022/4/1～2023/3/31

だれにでも覚えられるゼットイ基礎ボキャブラリー

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書

小澤 里奈

昨今、日本では韓国が話題だ。ドラマ・映画に始まり、流行り続けるK-POPとファッション、食文化など日本にたくさんの影響を与えている。そして、その影響をしっかりと受け、私も最近韓国語の勉強を始めた。

そこで韓国語の基礎学習に使用してほしい本書を紹介したい。本書は韓国語の基礎を端的にまとめ、かつよく使われる単語を1,000以上載せているので、初めて勉強する人におすすめである。活字が苦手な人にもやさしい本で、P20まで読むと韓国語の仕組みをざっくり知ることができる。

もちろん他の外国語同様、暗記しなければならないことが多々あるので、初めから基礎文法を学ぶなども良いが、英語で習う「My name is Taro.」より、実際に使う単語から始めたほうが楽しく覚えられ、私は思っている。また無料ダウンロード音声が付いており、発音の勉強ができることも良い。

本書にも記載があるが、韓国語は正しい発音が難しい。しかしハングルは、子音と母音が記号となって組み合わせたり1つの文字と成る。文字自体に規則性があるので暗記できれば何となく発音でき

る。これが韓国語を学ぶ一歩となる。また、日本語と基本的な語順が同じで、日本人にとって入り口が優しい。

注目したいのは漢字語。日本語に似ている音で同じ意味の言葉が多数ある。例えば本書にも載っている「歌手」という意味の「가수(カス)」。カタカナで発音を記載すると違うと感じるかもしれないが、字幕付き映像で見ると「今、日本語話した?」となるので、とても面白い。

言語から文化を理解すると韓国語に限らず外国作品の面白さは何倍にもなる。また、ニュースやSNSで流れてくる話題にも背景を感じ、いつもと別の角度で考えるようになる。

軽い気持ちで学んだ内容も意外と身になるもの。言語だけでなく、食文化でもファッションの歴史でも異文化に触れてみることをお勧めしたい。中高生の頃のように勉強と考えず、新しい世界を理解できるように楽しむことを、ぜひ味わってほしい。

参考文献

鶴見ユミ著「だれにでも覚えられるゼットイ基礎ボキャブラリー：Basic 1000」Jリサーチ出版、2020.7 電子書籍

ら、鏡花の作品を読まないのは、折角の日本人たる特権を放棄しているようなものだ」と書いています。同じ文筆業の人間にすら「鏡花世界なる秘境に到達するためには先ず、その「表現の晦渋」という難関を突破しなければならない」（同上）と言われてしまったり、近代文学なのに現代語訳が出版されてしまったりするほどの難解さの先には、鏡花作品ならではの重厚且つ幽玄な世界があります。

難しくとても読めそうにない、と諦めてしまう前におすすめしたいのが、今回ご紹介する「鏡花短篇集」です。一本書の「電潭譚」は文語体で心を挫いてくるのでひとまず後回しにして、短い「雛がたり」あたりから入ると読みやすいはず。内容は、若干不気味なお雛様特化の枕草子です。短編を幾つか読んで準備を整えたら、「電潭譚」に挑戦してみてください。文法や表現は難解でも、内容は至ってシンプルな神隠しものです。見事読み終えることができたなら、その時には鏡花の日本語の素晴らしさに心打たれ、底なし鏡花沼に一步浸かっていること請け合いです！

参考文献

川村二郎編「鏡花短篇集」岩波書店、1987.9
芸術の森 1F 文庫新書 080/lwa/緑27-6
桑園 書庫・文庫 913.6/lzu

鏡花短篇集

桑園キャンパス・ライブラリー司書

田村 千香子

泉鏡花との出会いは大学生時代。講義で「化鳥」という短編作品を読みました。知らない単語に独特の言い回し、幼い少年の一人称で語られる境界線の曖昧な世界、難解なテーマ。初見で「無理」と仰け反ったのを覚えています。物語を頭に入れるため何往復も読み返し、先生の解説を聞いて、初めて、話のあらすじを理解することができました。

また別の講義では、映画「草迷宮」（泉鏡花原作：寺山修司監督1978年制作）を鑑賞。その衝撃的な内容にカルチャーショックを受け、先生からDVDを借りて気が済むまで繰り返し視聴しました。が、結局理解できず、「何かよくわからないけどすごいものを見た」というインパクトだけが残りました。この作品を誰かにおすすめする時は、「熱を出した時に見る悪夢の類い」と紹介しています。芸文図書館に館内視聴限定のDVDが配架されているので、興味がある方は是非見てみてください。今回紹介するにあたって改めて見直しましたが、相変わらず理解できていません。

高校の教材には難しい、文系大学以外ではそう出会わない、社会人になると読む時間もない、と、なかなか手に取る機会がない鏡花ですが、読まずにいるのは勿体ないほど美しい日本語を綴る作家です。「山月記」で有名な中島敦も、「鏡花氏の文章」（「学苑」1933年7月）冒頭で「日本人に生れながら、あるいは日本語を解しなが

図書貸出ランキング - 芸術の森 - AV視聴ランキング

No.1 ゴールデンカムイ (ヤングジャンプ・コミックス) シリーズ
野田サトル著、集英社、2015- 芸術の森 2F 一般図書 726.1/Nod
※シリーズ全体の貸出回数を集計しています。

No.2 三体 シリーズ
劉慈欣著、大森望、光吉さくら、ワン・チャイ訳、早川書房、2019-
芸術の森 2F 一般図書 923.7/San ※シリーズ全体の貸出回数を集計しています。

No.3 ライトニング (文春文庫：ク-5-1)
ディーン・R.クーンツ著、野村芳夫訳、文芸春秋、1989.10
芸術の森 1F 文庫新書 933/Koo

No.4 けっきょく、よはく。：
余白を活かしたデザインレイアウトの本
ingectar・e著、ソジム、2018.7 芸術の森 2F 一般図書 674.3/Ing

No.4 ブランディングデザインの教科書
西澤明洋著、パイインターナショナル、2020.12
芸術の森 2F 一般図書 675/Nis

総 評

2022年4月に完結した「ゴールデンカムイ」シリーズが1位にランクインしました。続く2位、3位には「三体」シリーズ、「ライトニング」といった読み応えのある文芸書がランクインしています。2022年は新型コロナウイルスに関わる規制緩和が進む一方で、オミクロン株の出現など日常に戻ったとは言いがた、自宅で時間を過ごす方も多かったのではないのでしょうか。こういった社会情勢も文芸書の貸出が多かった理由のひとつかもしれません。4位「けっきょく、よはく。」の著者の図書は貸出が好調で、「とりあえず、素人っぽく見えないデザインのコツを教えてください!」（芸森2F一般 674.3/Ing）などもランクインこそ迷いましたが人気のある図書です。

(芸術の森キャンパス・ライブラリー：中川)

図書貸出ランキング - 桑園 - AV視聴ランキング

No.1 人間対人間の看護
Joyce Travelbee [著]；長谷川浩、藤枝知子訳、医学書院、1974.4
桑園一般図書 492.901/Tra

No.2 対人関係に学ぶ看護：トラベルビー看護論の展開
Mary Ellen Doona [著]；長谷川浩訳、医学書院、1984.6
桑園一般図書 492.927/Doo

No.3 看護OSCE：objective structured clinical examination
中村恵子編著、メヂカルフレンド社、2011.4
桑園一般図書 492.907/Nak

No.3 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 第2版
Nursing textbook series [母性看護学；2 周産期各論]
有森直子編；五十嵐ゆかり [ほか] 著、医歯薬出版、2020.2 桑園一般図書 492.924/Ari/2

No.4 やさしい看護理論：ケアとケアリング：看護観をはぐくむ
はじめの一步、2 Introduction to nursing theories
城ヶ端初子編著、メディカ出版、2007.3 桑園一般図書 492.901/Jog/2

No.4 根拠がわかる母性看護過程：事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画
中村幸代編、南江堂、2018.4
桑園一般図書 492.924/Nak

総 評

今回は、例年人気の看護研究法の図書を抑え、看護論の参考書と助産学関係の図書がランキングの上位を占める結果となりました。また、10位以内には実習で役立つ図書が多くランクインしており、実践を見据えた勉強熱心な姿勢がうかがえます。参考書以外では、漫画「コウノドリ」（鈴木木ユウ著）、小説「正欲」（朝井リョウ著）が貸出回数上位に食い込んでいました。勉強に役立つ図書も、息抜きに読みたい図書も取り揃えていますので、ぜひお気軽に桑園図書館へお立ち寄りください。

(桑園キャンパス・ライブラリー：森田)

No.1 ドライブ・マイ・カー
濱口竜介監督/濱口竜介、大江崇允脚本/村上春樹原作、カルチュア・パブリッシャーズ (発売・販売)、2022.2 芸術の森 1F AV 778/Dri

No.2 One flew over the cuckoo's nest (カッコーの巣の上で)
directed by Milos Forman/produced by Saul Zaentz and Michael Douglas/based on the novel by Ken Kesey、ワーナー・ホーム・ビデオ [distributor]、c1998 芸術の森 1F AV 778/One

No.2 グルエラ
クレイグ・キレスピー監督、ウォルト・ディズニー・ジャパン (発売)、2021
芸術の森 1F AV 778/Cru

No.3 海がきこえる (ジブリがいっぱいCOLLECTION. Studio Ghibli DVD video)
氷室冴子原作/望月智充監督、スタジオジブリ (制作)/ブエナ ビスタ ホーム エンターテイメント (発売)、c1993 芸術の森 1F AV 778.77/Ghi

No.3 トイ・ストーリー 謎の恐竜ワールド
Pixar 制作、ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン (発売)、2014
芸術の森 1F AV 778.77/Toy

No.3 Toy story 4 (Disney DVD. Disney Pixar/Disney Pixar)
ジョン・ラセター監督、ブエナビスタホームエンターテイメント (発売)、2019
芸術の森 1F AV 778.77/Toy/4

総 評

国内外で多くの賞を獲得した「ドライブ・マイ・カー」が1位となりました。その影響もあってか、原作が掲載されている村上春樹の「女のいない男たち」(芸森2F一般 913.6/Mur)の貸出回数も増えました。まだ読んでいない方は、こちらもチェックして違いを楽しんではいかがでしょうか。2～3位も名作が並びました。新型コロナウイルスの影響で開館時間等の制限があったことや配信サービスが増えていることもあり、貸出回数は多くありませんが、やはりジブリやディズニー関連は根強い人気があります。

(芸術の森キャンパス・ライブラリー：鈴木)

No.1 社会性の発達
(健康・保健シリーズ、子どもの発達と支援：vol.3)
松村京子原案監修、医学映像教育センター (発売)、c2005 桑園 AV 493.91/Kod/3

No.1 ことばの発達
(健康・保健シリーズ、子どもの発達と支援：vol.4)
松村京子原案監修、医学映像教育センター (発売)、c2005 桑園 AV 493.91/Kod/4

No.2 認知・思考の発達
(健康・保健シリーズ、子どもの発達と支援：vol.5)
松村京子原案監修、医学映像教育センター (発売)、c2005
桑園 AV 493.91/Kod/5

No.3 ネフローゼ疾患で入院した小児の事例
(看護教育シリーズ、小児看護のためのアセスメント事例集：vol.2)
小川純子原案、医学映像教育センター (発売)、c2015
桑園 AV 492.925/Sho/2

No.3 プレパレーション 第2版
(看護教育シリーズ、小児看護技術：vol.2)
山口求原案監修、医学映像教育センター (発売)、c2016
桑園 AV 492.925/Sho/2

総 評

医学映像教育センター「子どもの発達と支援」シリーズが多く借りられ3位までを占めるランキングとなりました。1位は同率の貸出で2点、3位が同率で3点でした。視聴覚資料は全体的に貸出数が少ない現状です。館内視聴ブースの利用もできます。映像から学べる看護のための貴重な資料がたくさんありますので、書籍と併せてぜひ学習に活用してください。

(桑園キャンパス・ライブラリー：香川)